保育園で輝くこどもの写真がいっぱい!!

こどものえがお展 2020

放映コーナー
「フォトコンテスト全応募作品」のスライドショー
保育士会DVD「保育所(園)ってどんなところ?」

パネル展示
保育フォトコンテスト入賞作品、
ご挨拶パネル(市長、会長)、「子育てメッセージ」

配布コーナー
認可保育園ガイド、食育レシピ、入所申込書ほか

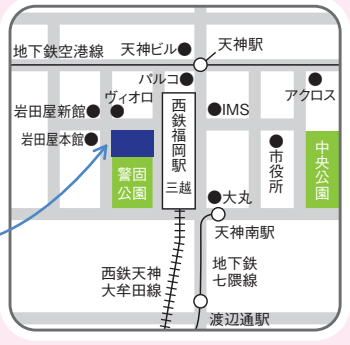
前年度　西日本新聞社賞

「トマト、みーつけた」

講評 被写体となる子どもたちに、かなり接近して撮影していますが、子どもたちがカメラを意識していないように見受けられました。作者と子どもたちの信頼感が見て取れます。まだ青いものの、実が大きくなったトマトを見つけた喜びはもちろん、ちょっと誇らしい気持ちも描き出しています。2人の子ども、トマト、葉、枝の配置も絶妙。こちらを振り向いている男の子がアクセントになっています。左奥に並ぶ傘も雰囲気があります。一見すると多くの要素が映り込んでいますが、2人の子どもの嬉しそうな表情が目立つ撮り方をしています。何を撮りたいか、狙いがはっきりとしていて、すがすがしいです。保育園ではありふれた日常のひとコマでしょうが、テーマをはっきりさせ、画面の隅々まで目配りした努力が奏功し、秀逸な作品に結びつきました。
作者の観察力と高い技術力を感じました。

日時 令和2年
10月28日(水)～11月1日(日)
午前11時～午後7時30分(日曜日は午後5時)まで

場所 ソラリアプラザ1階イベントスペース(ゼファ)



主催:福岡市保育連盟　後援:福岡市、西日本新聞社

福岡市長賞

「ぼくとぼく」

講評 鏡を利用した撮影法は、時々見掛けますが、これほどはまった写真は珍しいと思います。アイデアの勝利です。赤ちゃんの可愛らしい笑顔としぐさが伝わり、審査しながら癒やされました。この手法は、写真表現の引き出し方として参考になります。画面の真ん中に赤ちゃんを配置し、右側に「適度な空き」を設けた作画感覚もお見事。後ろに棚があるなど、やや物が多く見えるので、右側に空きをつくり、少しでもすっきりさせたかったのでは一と想像が膨らみました。その証拠に、視線が自然と赤ちゃんに向くからです。印象が付きやすい正面の顔を真ん中に置かず、左に外したのも正解。良い意味で空間構成を巧みに計算していて好感を持ちました。写真だけではなく、タイトルの付け方にもセンスを感じました。タイトルは、作者の狙いや意思、テーマが凝縮されるので軽視してはいけません。

福岡市保育連盟会長賞

「3人寄ればいつも笑顔」

講評 「3人寄ればいつも笑顔」。まさにタイトル通りの写真です。本当によく笑っています。一度見れば印象に残る秀作です。簡単に撮れそうですが、3人全員が同時に笑う場面をイメージしつつ、構図もしっかり決めて、この瞬間を待たないと撮れません。作者はこの条件を見事にクリアし作品として完成させました。評価できるのは、広角レンズを選択し、被写体に接近して撮った点。作者は、このレンズワークを完全に習得しています。露出も適切です。背景の棚にもピントが合うようにして、ごちゃごちゃ感も上手に取り込みました。画面構成力の高さに感心しました。それにしても、どうして棚にくっ付くように集まって、こんなに笑っているのでしょう。将来も仲良しなんだろうなぁ、困ったことがあってもアイデアを出し合って乗り越えていくんだろうなぁ、3人の関係性を色々と巡らせる、ほほ笑ましい写真です。

福岡市議会議長賞

「うま〜い」

講評 スイカを手にする子どもたち。よく見るといろんな顔が並んでいます。おいしそうに食べたり、楽しそうに笑ったり、スイカよりも他の何かに関心が向かっていたり…。多彩な表情が何とも言えないバランスで写真に納まりました。おそらく作者は、何回もシャッターを押した中での1枚だろうと推測します。少し離れた場所から望遠気味のレンズを使い、絞りを浅くした効果が出ています。背景を適度にぼかしているので、子どもたちが浮かび上がって見えます。レンズ選択の大切さをあらためて感じさせます。お手本になる作品です。審査をしていると、子どもたちの歓声や話し声が聞こえてきた気がしました。その場の臨場感と作者の感動がストレートに伝わりました。声が聞こえるような写真…。ある意味、写真表現を超えた、とも言えるのではないでしょうか。鑑賞する人を幸せな気分にしてくれるでしょう。

福岡市保育士会会長賞

「はかせになりたいのね」

講評 「撮影の意図」を読むと、この男の子、少し具合が悪くて保育園の医務室で先生に本を読んでもらっているということ。今日は元気なさそうですが、日頃は園庭でやんちゃしているのかな?二人の視線の先は昆虫の図鑑。体調が優れないのか、右手は机の上におき、左手でかろうじて本を持っています。先生はそっと顔を近づけやさしく読んでいます。男の子は本当は先生を見たかったのかな?でも、大好きな先生のやさしい声を聞きながら、先生を独り占めできてよかったですね。二人にカメラの存在を意識させず、日常の保育の姿を絶妙のタイミングでとらえています。

市民賞

「つかまり立ちトリオ」

(前年度入賞作品)